

## 自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 ぎふAL型授業研究会

テーマ 主体的に数学を学ぶ生徒を授業法の研究

## 取組のポイント・成果

## ○取組の内容とポイント

1. 目指す授業のかたちのゴールとしての探究活動について知るため、総合的な探究活動を先進的に取り組んでいる事例を学んだ。

産業能率大学主催のキャリア教育推進フォーラムに参加し、立命館宇治高等学校の酒井淳平教諭による講演「総合的探究の時間とは何か」や四日市商業高校の鈴木達哉校長や前郡上高校校長の服部弘幸氏による「キャリア教育とは何か」というテーマのパネルディスカッション、高田高校の岩佐純巨教諭による「数学における探究とは」というテーマでのワークショップに参加した。

2. 「授業はプレゼンテーション」「授業中の生徒の活動時間確保」の観点から、プレゼンテーション法の一つであるKP法（紙芝居プレゼンテーション法）の授業への活用例を学ぶワークショップを開いた。数学に限らず、他教科、研究会以外の参加者もあり、「横のつながり」が広がった。

コンセンサスゲームによるアイスブレイクの後、1分間プレゼンやKP法の演習を通して、端的に伝えることの重要性を再認識するとともに、KP法を通じた思考整理を体験することで授業の質の向上を図ることができた。

3. 授業改善の先進校である静岡市立高校を訪問し、授業を参観させていただくとともに、アクティブラーニングの視点での授業改善について、研究主任の先生から講義をしていただいた。

静岡県内の市立高校9校の取り組みや静岡県における授業改善のシステムや、「主体的・対話的で深い学び」実現のためのサポートブックについて講義していただいたあと、静岡市立高校における組織的授業改善の方法について紹介していただいた。

そのほか、KP法の視点を取り入れた授業改善が個々ですすんでおり、ICTを用いた授業も積極的に行われている。研究会に属する職員の勤務校において授業研究を行い、また、相互訪問をして授業見学、研究会等を開き、積極的な実践交流を行った。とてもいい刺激になり、授業改善も進んだ。他校の授業を見るという文化が少しずつでも根付いていけばと考える。

## ○成果

何を差し置いても、学校を超えた授業改善の和ができつつあることが大きい。支援していただいたおかげで学びの場ができ、個々ではなく組織として授業改善に取り組める環境ができた。ICTの活用は若手のほうがむしろ積極的で、ベテラン職員が若手から学ぶことも多く、校内、校外を問わず組織の風通しがよくなった。

※ 写真別途添付

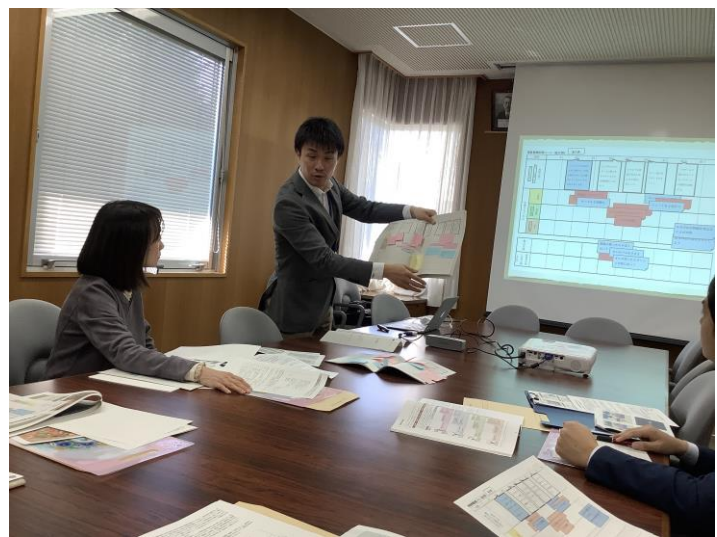
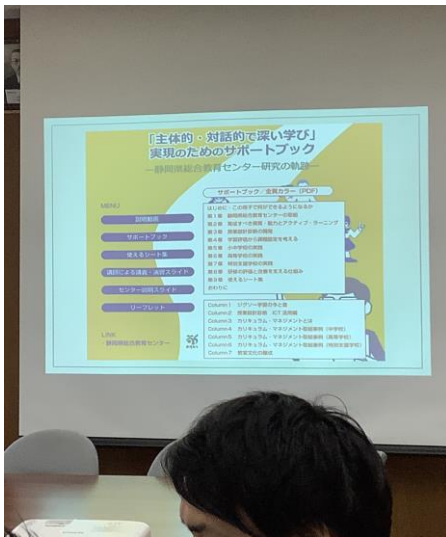
## 今後の課題

組織として授業改善に取り組んでいけるよう、今年度だけの活動になることがないように今後とも積極的に授業見学等の交流を行うことが最も重要である。また、研究会だけでなく授業改善の視点と姿勢を広く共有できるよう、今後とも自主研修を進めていく。

K P 法講習会（産業能率大学准教授 皆川 雅樹 氏）



静岡市立高校 学校訪問 AL型授業に関するレクチャー



相互授業見学 交流

